

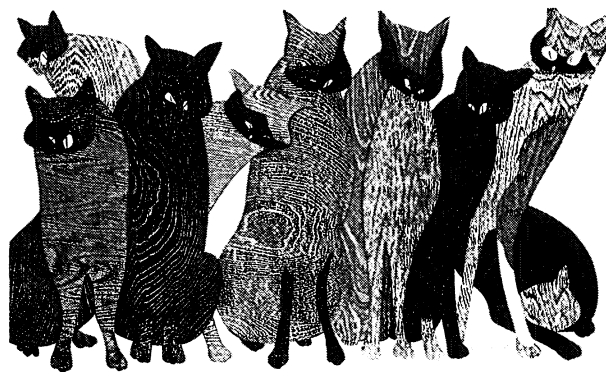
齋藤清の全貌展

文化
の窓

第一部 70年のあゆみ：6月10日(火)～7月13日(日)
第二部 表現と技法：7月19日(土)～8月24日(日)
休館日：毎週月曜日(7/21(祝)は開館)および7/22(火)



疑視(花) 1950年



観覧 1973年

観覧料○

一回券：一般・大学生＝840円(680円)／高校生＝630円(470円)
／小・中学生＝420円(310円) ※()内は20名以上の団体料金
共通券：一般・大学生＝1300円(1100円)／高校生＝1000円(800円)
／小・中学生＝700円(500円) ※()内は20名以上の団体料金
ギャラリーートーク○第一部 6/20(金)14:00、6/28(土)11:00
第二部 7/25(金)14:00、8/9(土)11:00

福島県の会津坂下町に生まれた齋藤清(1907年生まれ)は、戦後日本の版画界を代表する作家の一人です。1951年、日本人として初めてサンパウロ・ビエンナーレ展で受賞して以来、国際的に高い評価を得るようになります。その旺盛な制作意欲は京都など古都の風景、外国風景、そして猫や花など身近なものまで様々なモチーフを対象とし、また木版のみでなくコラグラフや墨画などにも取り組み、多彩な創作活動を繰り広げてきました。

今回の展覧会は、本年卒寿を迎えた齋藤清の70年にわたる画業の全貌を二部構成で紹介しようというものです。第一部では初期から現在にいたる軌跡をたどり、第二部では質感(マチエール)、形と構図、装飾という3つの観点から表現の特徴を見直してみます。木版画、コラグラフ、ドライポイント、油彩画、墨画など合わせて450点あまりの作品によってその芸術の精髓に迫ります。



会津の冬(田川井) 1961年